

小規模企業景気動向調査

[2021年9月期調査]

～大幅悪化から回復に転じるも、感染状況や原材料高など懸念材料が多い小規模企業景況～

2021年10月29日
全国商工会連合会

＜調査概要＞

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2021年9月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

＜産業全体＞ ◇…大幅悪化から回復に転じるも、感染状況や原材料高など懸念材料が多い小規模企業景況…◇

9月期の小規模企業の業況DIは、小幅な改善となった。情報連絡員からは、全般的に、前年同期と比較しても、まだ、本格的な改善には程遠く、いまだ厳しい状況が続いているとの声があった。全国的に行動制限が少しずつ緩和されることから、今後の回復に期待を寄せる事業者が多いとのコメントが目立ったが、一方で冬にかけて昨年同様感染が拡大し、深刻な状況になることを懸念する声も多くあった。また、経済活動の回復の中で、原材料価格の高騰や資材の調達難が、全業種の業況に悪影響を与えているとの声も多数寄せられた。

＜製造業＞ ◇…一部業種が好調も、原材料高・人手不足など様々な課題が残る製造業…◇

製造業は、業況DIが小幅に改善したが、他3DIは小幅に悪化となった。食料品関連は、需要はやや回復傾向も、天候不順による原材料価格の高騰が続き、同業の事業者間で仕入競争が激化しており、今後もこの状況が継続する懸念があるとの声があった。繊維関連は、季節ものの受注は動いているが、外出自粛の影響で、業界全体で売上が低迷しているとのコメントが目立った。機械・金属関連は、半導体関連の受注は好調で、繁忙な状態が続いているが、設備の老朽化や人手不足が課題となっているという声があった。

＜建設業＞ ◇…受注は好調も、原材料価格の高騰・資材の調達難により、採算・資金繰りに苦しむ建設業…◇

建設業は、業況DIは大幅、それ以外は小幅な改善となった。情報連絡員からは、一般住宅工事や土木工事では、ある程度の受注は確保できているが、資材や燃料の価格高騰により、採算や資金繰りが悪化しているとの声が多くあった。また、設備工事関連では、海外からの資材が、コロナ禍の影響で、サプライチェーンが寸断されたことにより、納品の目途が立たず、工期の延長が不可避となり、売上が大きく減少したとのコメントが目立った。

＜小売業＞ ◇…若干上向きも、低迷から脱却できない小売業…◇

小売業は、売上額・採算DIは小幅な改善となったが、その他は小幅な悪化となった。食料品関連は、巣ごもり需要である程度売上は確保できているが、天候不順で野菜を始め生鮮食品の仕入価格が高騰した影響や、サービス業に比べ支援施策が少ないこともあり、一部では、資金繰りが逼迫しているというコメントがあった。衣料品関連は、やや上向きであるが、生産調整等の影響による仕入難から機会損失が発生し、売上減少の要因となっている。また、耐久消費財関連は、空気清浄機やエアコン等の需要は引き続き堅調だが、前年同期と比較すると売上が減少したとの声があった。

＜サービス業＞ ◇…大幅な悪化から回復に転じるも、気が抜けないサービス業…◇

サービス業は、昨月の大幅な悪化から、全DIが回復に転じ、特に業況DIは大幅に改善した。GoToキャンペーン等が実施されていた、前年同期と比較すると売上げは大きく減少したが、宿泊業においては、感染者数の急減等に伴い予約客が増加しているものの、まだまだ気が抜けないというコメントが目立った。飲食業は引き続き厳しい状況は続いているが、緊急事態宣言等の全面解除に向けて準備をする姿勢が見られるとのコメントが多く見られた。クリーニング業はコロナ禍における冠婚葬祭の減少や簡略化により、需要が低迷しているとの声もあった。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比
売上額	▲ 35.9	▲ 33.7	2.2	▲ 30.6	▲ 31.4	▲ 0.8	▲ 25.9	▲ 21.6	4.3
採算	▲ 42.5	▲ 41.3	1.2	▲ 42.1	▲ 43.0	▲ 0.9	▲ 40.1	▲ 39.3	0.8
資金繰り	▲ 38.4	▲ 38.0	0.4	▲ 37.6	▲ 39.8	▲ 2.2	▲ 34.4	▲ 33.0	1.4
業況	▲ 42.8	▲ 39.3	3.5	▲ 39.4	▲ 38.4	1.0	▲ 37.1	▲ 30.9	6.2

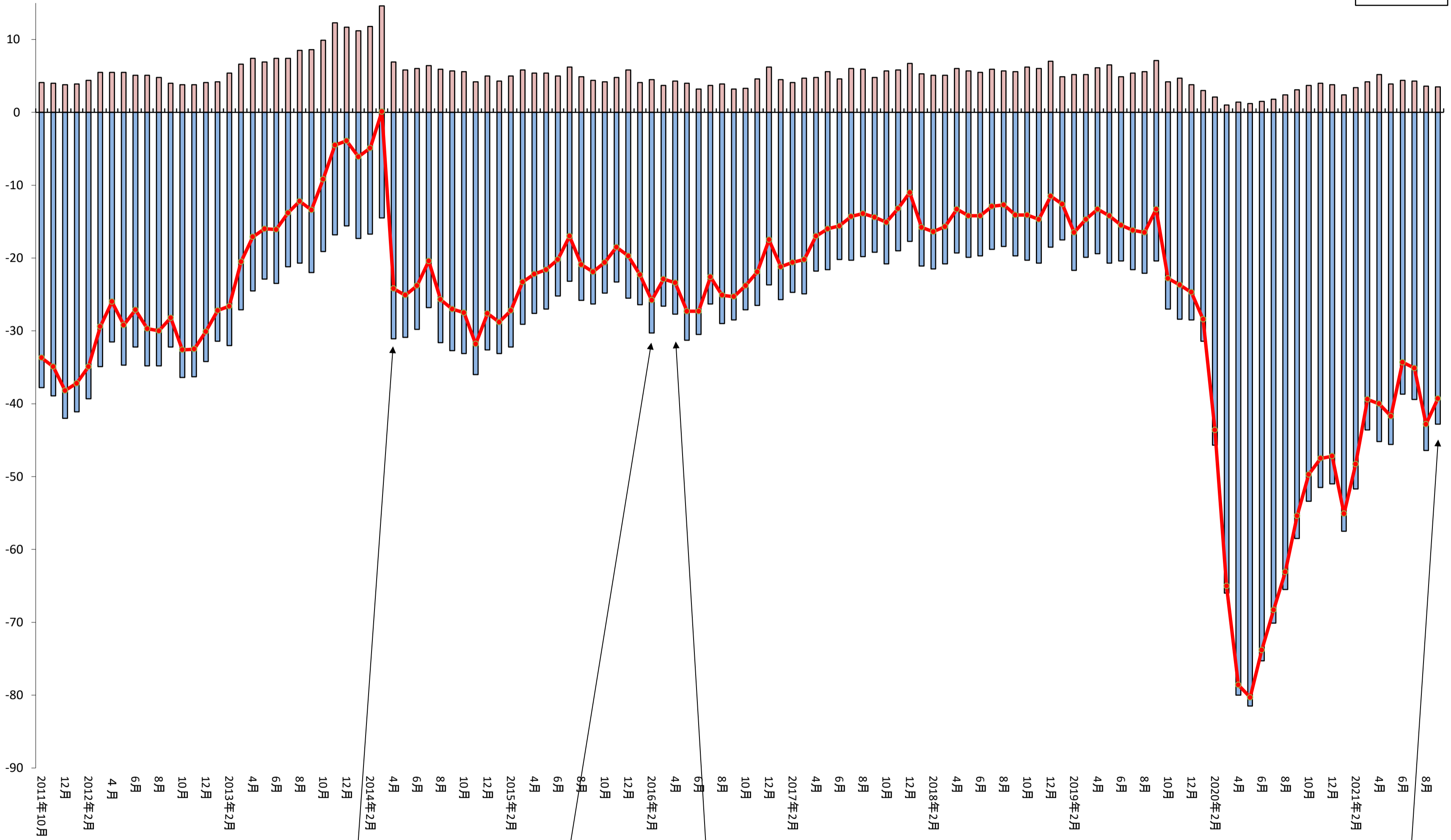
業種	小売業			サービス業		
	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比
売上額	▲ 37.3	▲ 35.6	1.7	▲ 49.8	▲ 46.1	3.7
採算	▲ 40.5	▲ 38.4	2.1	▲ 47.4	▲ 44.5	2.9
資金繰り	▲ 35.9	▲ 37.3	▲ 1.4	▲ 45.9	▲ 41.7	4.2
業況	▲ 41.3	▲ 42.4	▲ 1.1	▲ 53.4	▲ 45.5	7.9

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査(月次)

産業全体の業況…過去10年のトレンド…

■ 悪化
■ 好転
● DI



14年4月
消費税率8%に引上げ
(-24.2)

16年2月16日
日銀マイナス金利
導入 (-25.8)

16年4月
熊本地震 (-23.4)

21年9月
(-39.3)

小規模企業景気動向調査(9月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

9月は12日をもって県内のまん延が解除されたため、その前後で状況は大きく変わった。飲食店に関しては、県からの休業協力金の申請が開始され今後順次支払われることで資金繰りは大幅に改善される見込みである。10月には緊急事態宣言が一斉解除となり、経済が動き出す兆しが見えている。

(中央市商工会)

緊急事態宣言が解除され、人流も増加していることもあり、景気全体は、回復機運が感じられるが、新政権誕生や選挙など、不確定リスクもあり、不透明感はある。観光産業は、GO TOトラベルなどの施策に期待感が増している。

(呉広域商工会)

コロナで飲食店については厳しい状況であった。県の認証店等申請があり効果はあると感じる。ただ、コロナ型持続化補助金等を活用された事業所にHP作成等で来店客が増加しているという効果があった。まん延防止が解除されれば、観光業等に兆しが見える可能性がある。コロナワクチン接種と経済は連動している。厳しい状況であるがコロナに対応できる取組を支援したいと思う。

(玉名市商工会 天水支所)

約1年半に及ぶ、コロナ禍により、飲食店等への影響は大きく、まん延防止が解除されても、再びお客様が戻ってきてくれるか不安を感じている事業所も多い。この間、国の補助金(持続化補助金・持続化給付金・一時金)県の補助金(事業継続補助金・一時金・時短協力金)町の補助金(換気対策・事業継続補助金・コロナ対策補助金)等により、どうにか経営を維持している事業所も多かったように感じる。

(苓北町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

当地域でも新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生するなどしたため、地域内の人出が大幅に減少している。また、米作農家が多い地域であるが、今年のコメの値段が安くなっていることに加え、雨が少なかったことによる生育不良も見られ、厳しい状況となることが予想されている。農家が苦しくなることで小売業やサービス業にも悪影響を及ぼすことが予想され、注視している。

(中泊町商工会)

食品製造業、食料品小売業、旅館業など食品を扱う事業所においては、大雨被害や材料費高騰などの影響で仕入単価が上昇し、業績悪化が見受けられる。先月、本市内で発生した新型コロナウイルスの面的クラスターの影響も薄れてきており、明るい兆しが見えるが、まだコロナ前までの水準までには至っておらず、今後も経済情勢を注視していく必要がある。

(由利本荘市商工会)

前年の同時期は、感染者数なども減少傾向にあったなかで、様々な景気刺激策もあり、回復傾向にあったものの今回は、緊急事態宣言の発令などによって全体的に厳しい状況が続いている。飲食店においても先月に引き続き時短営業や休業をしている店舗が多く見受けられ、時短営業をしても酒類の提供ができないこともあって、売上が大きく減少しているところが多い。先月に引き続き、県の協力金や支援金制度、月次支援金制度などの相談が増えてきている。

(栄町商工会)

サービス業は緊急事態宣言の発出の影響を大きく受けているものの、全体的に業況は低水準で先月と変わらずの事業者が多い印象。緊急事態宣言が明けるとの期待と人流が増えることで再び悪化するのではないかといった何とも言えない状況を感じており、今後第何派ときても対応できるようwithコロナへの取組強化を一層支援していく必要がある。また、融資関係も売上が回復していない中、据置期間が終える事業者も多く更に厳しい状況となる懸念がある。

(養老町商工会)

緊急事態宣言により全業種で売上低調傾向であった上に一部仕入単価の上昇により採算が悪化している業種もあった。特に飲食業では休業協力金で何とか支払を行ってきたが、一部業種転換に取り組む事業者も始めている。

(飯塚市商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まりつつあり、回復傾向にある。10月から緊急事態宣言が解除されることから更なる受注回復が見込まれる。

(白神八峰商工会)

備前市は耐火物産業が基幹産業となっており、自動車需要の回復を受けコロナ前の水準に戻っている事業所もある。ただ、国内の大手製鉄所では相次いで高炉の休止を発表しており2025年までに減産が続く見込みで、厳しい局面が続くと想定される。

(備前東商工会 吉永支所)

<食料品>先月の鶏肉や夏野菜に加え、生産地の天候不順や世界的な需要拡大によって、「大豆」や「なたね」の価格も高騰しており、マーガリンなどの植物油から作られる商品の値上げが相次いでいる。<繊維工業>欧米向けの衣料品の受注回復によって、約2年ぶりにアパレル(一般衣料)関連の景況感に明るい兆しが見え始めている。また車両向けの受注も徐々にコロナ前の水準に戻りつつある。<機械・金属>米中市場の景気回復により、金属製品の原材料費が高騰。ただそれ以上に世界的な銅需要が大きく伸びており、黄銅棒などを製造しているメーカー向けの工業炉部品や消耗品を製造している製缶板金業等の業績が伸長している。

(射水市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

食品関連製造業の一部には内食需要の高まりにより稼働率が好調な事業所もあるが、全体的に稼働率は低い、要因としては原材料の供給不足や需要の減少が挙げられる。

(本吉唐桑商工会)

食料品…大雨被害等による材料費高騰が続いていることと、同業による取り合いで材料仕入が厳しい状況にある。今後も原材料の価格が引き下がることがないことから、価格転嫁を検討。繊維工業…コロナ特需があった昨年同月に比べると受注量は微減。取引は主に県外企業のため、先月発生市内クラスター影響もほとんどなかったが、まだコロナ前受注状況までの回復兆しはなく、営業活動も出来ていないため今後の見通しは良くない。機械・金属…半導体関連の大手企業からの受注が増加し繁忙状態が続いている。設備老朽化や人手不足というマイナス要素はあるものの、しばらく受注状況は安定して続くと思われる。

(由利本荘市商工会)

繊維工業:新型コロナの影響による受注停滞は続いており、来春以降の復調に期待している。機械金属:主力の建材業界は業況厳しく、また自動車においても海外からの部品サプライチェーンが寸断されたこと(コロナによる)からメーカーの生産調整の影響を受けて受注がダウンし回復の見込みがたたない。春以降、鋼材価格の上昇に歯止めがかからず資金繰り、採算の圧迫要因となっている環境下では材料価格上昇分に天下することも困難である。

(小矢部市商工会 津沢支所)

繊維工業は秋冬に向けて商品を早めに仕入れている。これから順調に売上は伸ばせそうだが、業界とくに下請け工場がストップしている原因もあるが動きは遅い納期も遅れ気味である。機械金属製造業は多少だが去年よりいい傾向にある。コロナの感染状況も今のところ減少方向に向いているのでこのまま落ち着き受注も増えてほしいと祈っている。食料品製造業はコロナの影響を受け原材料の価格が高騰し仕入れ単価が上昇した。経費の圧迫の恐れがある。

(北杜市商工会)

食料品製造業は夏の大雨の影響でお盆の時期の初盆等の商流の動きが鈍くなったように思える。同じく大雨の影響で生産物の被害がでていたことから食料品の価格も高騰傾向になるのではないかとと思われる。陶磁器製造業においても昨年からの引き続きではあるが、旅館やレストランに卸す業務用食器類の受注が大幅に減っていることから苦戦の状況が長らく続いている。

(嬉野市商工会)

食品製造業については卸し先の小売等により、個社ごとに明暗が分かれている。機械金属製造業については、概ね好調であるが、半導体不足の影響を受けているメーカーが取引先である事業者等が業況が悪化している。

(玖珠町商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

一部木材の単価が、1.5～2倍に高騰しており当初見積との相違があり収益を左右するなどの問題もあるが全般的に受注量が増加しているため状況は良い。

(小平町商工会)

建設関連の事業者は、全般的にはウッドショックの影響は軽微にとどまっており、昨秋は一般消費者の需要減退からリフォーム・新築ともに減退していたが、今年度に入りリフォームを中心に回復基調にある。

(米子日吉津商工会)

新型コロナウイルスの影響は続いている。徐々に受注も回復しつつあるものの、コロナ前の水準には到達していない。前年が最低水準であったため、前年比較としては増加している。

(中部商工会産業支援センター)

需要については引き続き高い状況にある。他の地域では、個人事業主の倒産等により、影響を受けているとの状況もあるが、当地域では現状、そのような状況ではない。

(玖珠町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

建設業関連について、ウッドショックに始まり、その他部材についても軒並み仕入れ単価が高騰している。中には3倍近い価格まで跳ね上がってしまっている。住宅建設の需要が一定数あるため、価格への転嫁と仕入れ資金(運転)の確保が課題となり、建設業関連事業者からのマル経融資の相談が増加している。

(畑野商工会)

建築業では、受注はあるが材料不足があり工事にかかれぬ悩みがある。工期に変更がないため人件費増が今後予想され利益確保が出来るか不安

(羽咋市商工会)

土木関係は台風復旧を中心に引き続き安定した受注がある。建築関係は、ウッドショックによる仕入れ価格の高騰、納期の遅れなどが引き続き続いており、受注量も事業者間格差が出ている。ウッドショックの影響の長期化により今後の着工にも影響が出始めている。

(佐久市望月商工会)

新築案件は少ない。一部ハウスメーカーの建売物件の建設ラッシュのところもあるが全体的に仕事は薄い。大手下請けはコロナ蔓延時期に親会社が外出自粛で積極営業できなかったし寄せが今になって出ており、受注が減少しているが、離職率も多く、資金繰りは何とかかかまっている状況。

(浅羽町商工会)

建設業では、9月末までの緊急事態宣言の影響により、住宅リフォーム需要減退につながっており、収益悪化が継続している。人流の減少により、展示場への来場客が激減するなどで、回復基調が暗転した。

(川西市商工会)

災害特需により土木工事に関しては好調。建築工事に関してはウッドショックの影響で新築工事は減少しているが小規模な改修工事等は例年なみである。仕入れ価格に関してもウッドショックにより例年より高騰している。

(日田地区商工会 大山支所)

新型コロナウイルスの影響のため、相変わらず受注難・資金調達難・人材不足の状況は続いている。

(南九州市商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

新型コロナウイルス感染症が収まりつつあり、回復傾向にある。緊急事態宣言が解除されることから、更なる回復が見込まれる。

(白神八峰商工会)

食料品小売業関連の事業者は、巣籠り需要が盛況のため、売上増になっている。特に冷凍食品の売上が増加している。

(能登町商工会)

巣籠り需要で食品は昨年度から好調である。

(備前東商工会 吉永支所)

緊急事態宣言が解除され、人流も増加していることもあり、物流も戻りつつある。

(呉広域商工会)

小売についてはメディア、新聞等に露出したことにより売上増加傾向にある。

(玉名市商工会 天水支所)

<悪化傾向を示すコメント>

衣料品小売業においては、今までのメイン顧客である高齢者は外出を控えており、若年層は車で遠方に買い物に行くため売上の減少が続いている状況にある。地域の商品券事業の効果も薄いと感じられる。食料品小売業においては、コンビニや大手スーパーへの顧客の流出がコロナ後より顕著になっており、厳しい状況が続いている。

(栗原南部商工会)

衣料品関連の事業者は、9月下旬頃から商品の動きがようやく出てきており、緊急事態宣言解除になるかという期待で新たな洋服を購入する傾向があるが、依然として厳しい状況である。食料品関連の事業者は、R3年産米の生産者仮渡価格が大幅に下落しており、続く緊急事態宣言下で業務用米は動いていない。一方、今後仕入れ予定の生産資材は輸送コスト増大で高騰しており、経営を圧迫している。耐久消費財関連の事業者は、世の中が回復に向かおうとしている中、新型コロナの影響は依然として根深く、売上回復の兆しは見えない。

(かづの商工会)

地元住民向けの食料品小売業では、中年層以下は大型スーパーやインターネットで購入していて地元購買率が低く、主要客層が高齢者であるためコロナ禍前からの人口減少・高齢化による微減傾向が続いている。また、祭りなどの町内会行事がコロナ禍で軒並み中止されており、まとまった仕出しや酒類の売上減少に影響している。家電小売業は、飲食店や宿泊施設向けコロナ感染防止対策補助金により、空気清浄機能付きエアコンや空気清浄機の需要が多く、昨年のコロナ感染防止特需並みの売上があった。衣料品小売業は、旅行や仲間同士の会合など新しい洋服を購入する動機づけとなる機会がないため、客数、売上ともに低迷している。

(妙高高原商工会)

衣料品業は、まん延防止措置の影響により、客単価が1割～2割程度減。食料品小売業(個人)は、客層高齢化の影響もあり前年同月比売上は減少。コロナ禍で売上減に拍車がかかった。時計宝石販売店は、前年同月比3割の減。新品購入者が減で修理依頼が増えている。

(富山市八尾山田商工会)

衣料品:売上は春から引き続いて伸び悩んでおり、好転の兆しを感じられない。商品券事業があることが下支えになっている。更なる自治体等の支援を望む。今後のインボイス制度に不安を感じている。食料品:10月から食料品の一部に値上げがあると報道されたせいか、月末に若干ではあるが駆け込み需要があったように感じた。商品券事業に期待している。耐久消費財:9月は電気工事が好調であり、例年より若干の売上増となった。懸念事項としては、10月より工事材料などの値上がりの可能性あり。同業界としては、電化製品のみ販売しているところは厳しいが、折田さんのように工事があるところは少し好調なのではとの情報いただく。

(小矢部市商工会 津沢支所)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

今年の夏も、移動自粛を受けて観光客が少ない状況にあり宿泊業は苦戦している状況にあるが、テイクアウト施設を計画するなど新形態を模索する事業者もいるなど、アフターコロナに向けて準備する姿勢も見られる。

(外ヶ浜町商工会)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まりつつあり、回復傾向にある。特に宿泊業においては、予約客が増加しており、主に県内の観光客が多くを占めている。10月に緊急事態宣言が解除されることから、更なる顧客増加が見込まれる。

(白神八峰商工会)

緊急事態宣言等の影響で入込客が少なく経営的に厳しい事業者が多い。このような中で、10月以降全ての宣言等が解除されることでの人の動きは期待されている。

(屋久島町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

旅館関連の事業者は、新型コロナの影響により、依然として飲食の機会が著しく減少している。売上の減少が1年以上続いており、長期化するにつれて資金繰りへの影響は大きくなっている。洗濯関連の事業者は、新型コロナの影響により飲食店やホテル関係の仕事が減少しているが、昨年ほどの大きな売上変動はない。理・美容関連の事業者は、コロナ対策のため非課税世帯に商品券が配布されたため、一定程度商品券の利用が見られ売上確保に貢献した。所属商店街のスタンプラリーが始まったが、当店で利用にはあまり影響はない。9月末で市内旧スーパー内のテナントが全店閉店したため、人の流れに影響が出ることが懸念される。

(かづの商工会)

理美容が特に苦しい。コロナの影響で来店を控える顧客が増え、売上が減少している。なのに受けられる支援金等の施策がなく従業員の給料支払いも困難になりつつある。

(金井商工会)

洗濯業関連事業者について、観光需要の冷え込みによる宿泊業からの白物案件の停滞、夏季イベント中止に伴う衣装等の依頼減少が重なり、売り上げの落ち込みが強くみられた。

(畑野商工会)

旅館業に関してはまん延防止の影響を大きく受けたため月半ばまでは厳しかった。しかし県内のまん延防止解除をきっかけにシルバーウィーク辺りから近隣県の顧客で予約が埋まるようになってきた。10月からは緊急事態宣言が一斉に解除となるため首都圏からより多くの顧客が見込める見通しとなる。洗濯業に理容業もまん延防止により悪影響を受けたが、9月後半から回復傾向にあり、第6波を避けることが出来れば見通しはよくなっていきそうである。

(中央市商工会)

・コロナ感染拡大により、予約が減少したこともあり週末のみ営業。前年同期はGotoトラベルがあり、比較すると売上は大きく減少。休館は雇用調整助成金等活用。宣言解除後の10月以降に期待したい。・昨年同月比では大きな変化はない。10月からは緊急事態宣言及び蔓延防止等重点措置が一斉解除となる事から、受注が増える見込み。・店舗の顧客層によって状況の差があり。理容業は顧客の高年齢層が多く、外出控えが継続しており、売上減少傾向が続いている。美容業の若年・中年層の女性客がメインの店舗は特に影響なし。

(中部商工会産業支援センター)

宿泊関連業者や飲食関連事業者は、予約は入るものの、新型コロナウイルスの動向を受けてキャンセルが発生するなど状況が日ごと変化し、消費者の動きが鈍っている中でさらに見通しも立てにくい現状。観光関連事業者は、7月後半から発生した新型コロナウイルス発生件数が沈静化し、県内(山陰)ではWelove山陰キャンペーンの再開など観光関連事業者の支援策利用が増加したことで、やや好転している。

(米子日吉津商工会)

理美容業関連の事業者の今年の9月期の景気動向は、新型コロナウイルス感染症の影響により、仕入単価は低下しているが、仕入単価を除きどの項目も前年同月と同様で、未だ改善されたとはいえない厳しい状況が続いている。

(あさぎり町商工会)